

ピロードムラサキの分布

著者	山中 二男
著者別表示	Yamanaka Tsugiwo
雑誌名	植物地理・分類研究
巻	35
号	2
ページ	88-88
発行年	1987-12-25
URL	http://doi.org/10.24517/00056086

よくわかっているようで、このような問題のある植物は、西日本にもほかにまだあると思う。植生とくに群落の組成を主とする研究には、それを念頭においておく必要がある。

引用文献

- HARA, H. and H. KANAI. 1959. Distribution maps of flowering plants in Japan 2. 100 maps. Inoue Book Comp., Tokyo.
 初島住彦. 1976. 日本の樹木. 879 pp. 講談社.
 初山泰一. 1953. ヒメクロモジ. 植研 28: 317-318.
 —. 1954. ふたつの *Lindera* について. 植研 29: 204-205.
 村田 源. 1977. クロモジとその仲間. 近畿植物同好会会誌 (6): 1-5.
 SASAKI, Y. 1970. Versuch zur systematischen und geographischen Gliederung der japanischen Buchenwaldgesellschaften. Vegetatio 20: 214-249.

- 鈴木時夫. 1952. 東亜の森林植生. 137pp. 古今書院.
 YAMANAKA, T. 1961. *Abies firma* and *Tsuga sieboldii* forests in Shikoku (Forest climaxes in Shikoku, Japan 1). Res. Rep. Kochi Univ. (Nat. Sci. I) 10: 19-32.

Summary

Lindera sericea and *L. umbellata* are found in western Japan. Although *L. sericea* var. *glabrata* is widely distributed, var. *sericea* occurs frequently in Shikoku and Kyushu but is rare in Honshu. On the contrary, it is uncertain whether or not *L. umbellata* var. *umbellata* commonly found in Honshu is distributed in northern and western Shikoku as well as in Kyushu. *L. umbellata* var. *lancea* is growing in southern Honshu, southeastern Shikoku, and Kyushu.

(Received January 21, 1987)

○ ビロードムラサキの分布 (山中二男) Tsugiwo YAMANAKA: Distribution of *Callicarpa kochiana* MAKINO.

ビロードムラサキが、本州と九州とでは、きわめてまれな植物であることは、HORIKAWA, Y.: Atlas of the Japanese Flora II: 748 (1976) の分布図を見るとよくわかる。紀伊半島では、三重県海山町島勝浦、尾鷲市須賀利町と九鬼町 (いずれも 5 万分 1 地形図は島勝浦) の記録 (矢頭猷一 1958, 紀伊半島森林植物の研究 IV 紀伊半島木本植物目録, 三重大学農学部演習林報告(3): 15-184。村田源 1961, 近畿地方植物誌(7), 兵庫生物 4: 33-36) があるが、九州では鹿児島県串木野市の冠岳のふもと (おなじく地形図は川内) のみにしか知られていない (土井美夫 1940, びらうどむらさき薩摩二産ス, 植研 16: 382。初島住彦 1964, 鹿児島県の植物, 鹿児島県の自然: 35-88)。

四国では、他の三県にはないが、高知県ではことさら珍しいというほどではない。生育地は海岸ぞいの地域で、海拔 150 m 以下、シイノキやタブノキを主とした古い林かそれらの二次林のほか造林などの陰地に見られる。標本によってたしかなところを、地形図の図幅名とともにあげると、東洋町甲浦、相馬、野根八幡宮 (いずれも甲浦)、同名留川一黒瀬 (馬路)、奈半利町久礼岩、室戸市入木、中里 (奈半利)、同室戸岬、元 (室戸岬)、高知市丸ノ内、五台山 (高知)、土佐市竜、須崎市安和 (須崎)、中土佐町小矢井賀 (窪川)、土佐清水市久百々 (土佐中村) および同窪津と足摺岬 (土佐清水) である。

こうした分布は、本州南部の太平洋側が北限になる植物では、すこし特異ともいえるので、自生地を明らかにしておく。

なお、*Callicarpa* ムラサキシキブ属には、種小名に日本 (*C. japonica* THUNB. ムラサキシキブ)、四国 (*C. shikokiana* MAK. トサムラサキ)、土佐 (*C. tosaensis* MAK. オオバムラサキ) に高知 (*C. kochiana* MAK. ビロードムラサキ) とそろっている。これも珍しい例で、しかもその 4 種がすべて見られる県は、高知以外にない。

もっとも、この *kochiana* は、高知市ではなく高知県をさしたものであると思われる。それというのは、今は高知市に入っている五台山も、牧野博士がそこでビロードムラサキを採られた当時は、長岡郡五台山村であったのと、すでに *C. tosaensis* の名を別につけていたため、土佐ではなく高知にされたのであろう。ただ、土佐の高知のはりまや橋の坊さんの五台山であってみれば、*kochiana* は高知市に無縁ともいえない。ちなみに、原記載では産地を土佐として、もちろんタイプの指定もないが、竜村 (現在の土佐市竜) とともに、五台山の名がそれ以前に出てきている。その五台山の竹林寺の周辺の林は、ビロードムラサキが、いまでもよく目につくところである。

(Received Jun. 30, 1987).